

## 新教育課程の実施を見据え、自校の取組を見直しましょう

今年度から、全国学力・学習状況調査の結果が、7月に公開されました。各学校においても分析が進められ、2学期からの指導の改善・充実に生かされていることと思います。西部管内の質問紙分析結果から見える傾向について、国立教育政策研究所が公表している学力と正の相関が見られた質問を中心に、新教育課程と関連したカテゴリーで概要をまとめました。

自校の学力向上の取組を振り返り、改善のポイントを参考にいただき、新教育課程の実施を見据え、改善・充実を図っていきましょう。具体的な事例を記載した指導資料\*も発行しましたので、併せてご参照ください。

### 学校運営 教科相互の関連や学年の系統をとらえて！

全国比	質問紙	質問事項 【質問No.】
良好	学校	学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる。【小：82、中：79】 ----- 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、(外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる。【小：81、中：78】
課題あり	学校	教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している。【小：17、中：16】 ----- 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。【小：18、中：17】

教職員の組織について、管内の学校は学力向上等を中心に、協力的に進められています。一方、教育課程の編成・実施については、教科横断的な見方やPDCAサイクルを生かした評価・改善に課題が見られます。教科相互の関連や、学年の系統をとらえて、教育活動全体を通して学校教育目標を達成できるようにしていく必要があります。

改善のポイント



### 授業改善 児童生徒が課題解決を実感できる授業づくりを！

全国比	質問紙	質問事項 【質問No.】
良好	学校	児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。【小：13、中：13】
課題あり	児童生徒	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。【小：55、中：52】

学習過程スタンダードを作成している学校が多く、授業改善に対する先生方の意識は確実に上がっています。特に課題意識のもとせ方やまとめ・振り返りにかかわる教師の意識は高くなっていますが、児童生徒の実感はもう一歩です。より一層、児童生徒が課題解決を実感できる授業づくりを推進していくことが重要です。

改善のポイント



### 生徒指導 個々の児童生徒が活躍できる場面の設定を！

全国比	質問紙	質問事項 【質問No.】
良好	学校	児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組をよく行いましたか。【小：30、中：29】 ----- 児童生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えている。【小：24、中：23】
	児童生徒	自分にはよいところがあると思う。【小：1、中：1】
課題あり	児童生徒	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。【小：2、中：2】

児童生徒を積極的に評価しようとする学校は多く、児童生徒も自分によいところがあると思っている割合が高いです。しかし、児童生徒が先生によいところを認めてもらっているという割合は高くなく、全国比でも低いのが課題です。個々の児童生徒が活躍できる場面を意図的に設定し、評価につなげていくことが大切です。

改善のポイント

